

令和5・6年度

岡山県中学校教育研究会浅口支部・浅口市教育委員会指定

研究発表会

研究紀要

研究主題

「主体的・対話的で深い学び」の充実

～自ら学び、表現する活動を通して～

プライバシー保護の観点により、掲載いたしません。

令和6年11月8日(金)

岡山県浅口市立金光中学校

目次

はじめに

I 研究の概要

1 研究主題	1
2 主題設定の理由	1
3 研究の方針	3
4 目指す生徒像	3
5 研究仮説	5
6 研究組織	6
7 研究構想図	7
8 研究の過程	8

II 研究の内容

1 授業研究部会

(1) 部会の研究方針	9
(2) 具体的な取組	9
① 金光中学校型学習指導案	11
② 授業計画シート	12
③ 役割カード	12
④ 先行学習(先行課題)	13
⑤ 単元計画	14
⑥ マイノート	15
⑦ 単元末に行うパフォーマンス課題(イメージマップ・発展課題)	18
⑧ おかやま新聞コンクール	19
⑨ 教職員研修	20
(3) 反省・今後の取組	21

2 特別活動部会

(1) 部会の研究方針	28
(2) 具体的な取組	29
(3) 反省・今後の取組	30

3 ICT環境部会

- (1) 部会の研究方針.....31
- (2) 具体的な取組.....31
- (3) 反省・今後の取組.....33

III 研究の総括

- 1 全国学力・学習状況調査及び岡山県学力・学習状況調査の質問紙から.....35
- 2 全国学力・学習状況調査の学力検査から.....36
- 3 研究部会の取組と関わりがあったと見られる結果について.....37

はじめに

金光中学校のある金光町は、浅口市の東に位置し、豊かな自然に恵まれ、歴史的な名所や文化財が点在する地域です。令和元年度から、金光中学校区4つの小中学校で1つの学校運営協議会（金光地区学校運営協議会）を設置し、「金光地区のめざす子ども像」を明確にし、取組の3本柱を、「郷土愛」「自己肯定感・自己効力感」「あいさつ」として、推進しています。また、令和5年度からは、浅口市教育委員会より小中一貫教育校の指定を受け、「一貫教育 金光学舎」として、取組の継続と質の向上を目指しているところです。本校は、令和6年度、全校生徒266名（11学級）、教職員36名、学校教育目標「豊かな心をもち、夢に向かって努力する生徒の育成」、校訓「自主・責任・敬愛」のもと、教育活動をおこなっています。

さて、急速に進む人口減少、少子高齢化、グローバル化の進展やデジタル技術の進行等は、子どもたちを取り巻く社会環境にも大きな影響を及ぼしています。このような変化の激しい社会の中では、既存の枠組みにとらわれず、目の前の課題の本質を把握し、自ら考え、様々な知識や情報を活用して他者と対話・協働しながら解決していく力が求められます。

本校では、令和5年・6年度、中教研浅口支部の研究指定を受け、研究を推進してまいりました。前回（平成28年度）の研究発表以降、「主体的・対話的で深い学び」の充実に向けて、新たな試みを加えながら、授業改善を大きなテーマとして取り組みの蓄積を行ってきました。今回の研究にあたっては、授業研究部会で、これまでの研究を継続すること（いわゆる研究発表のための研究にならないこと）、今日的な課題に対応するため、特別活動部会とICT環境部会を設置すること、そして、働き方改革の視点から、教職員の過度の負担にならないような研究、発表にすることを教職員全員で確認しました。

本日は、普段の取組の一部を、授業公開及び研究発表会を通して報告いたします。ご参加いただきました皆様から様々なご意見をいただき、今後の研究推進につなげていければと考えています。

最後になりましたが、本校研究推進に様々な視点からご助言をいただきました、香川大学、岡山教育事務所の皆様、浅口市教育委員会学校教育課の皆様をはじめ、本校の教育活動にご支援いただいています多くの方々に感謝申し上げます。

令和6年11月

浅口市立金光中学校
校長

Ⅰ 研究の概要



1 研究主題

「主体的・対話的で深い学び」の充実
～自ら学び、表現する活動を通して～

2 主題設定の理由

(1) 今日的な課題から

次に示す課題から、変化の激しい世の中を歩いていくための力を日常的な教育活動を通して、醸成させていく手段の確立及び、教職員の働き方改革につなげることを目指したい。

2015年、株式会社野村総合研究所及びオックスフォード大学の共同研究(資料1)により、「IT技術の発達によって、10～20年後に、日本の労働人口の約49%が就いている職業が消える」という調査結果が公表された。そこから約10年の月日が経ち、ChatGPTなどの生成AIの登場により、その未来はますます近づいてきていると感じる。

また令和4年に改定された「生徒指導提要」では「これからの生徒指導の基本的方向性」が明確に示された。児童生徒が主体になり、教員は児童生徒の成長・発達を支える働きかけをする立場にあると記されている。いわゆる教員は生徒の「伴走者」であるという視点を意識する言い回しになっている。「生徒指導提要」を通して今まさに、生徒との関わり方の再構築を迫られていることが分かる(資料2)。

このような大きな変化が起こっているなかで、教職員には「働き方改革」の波が押し寄せている。2024年9月4日の山陽新聞の記事に、「中学残業月7時間減」という岡山県教育委員会が実施し

資料1

著作権保護の
観点により、掲載
いたしません。

出典：株式会社 野村総合研究所 2030年研究室
2015年12月一部加工

資料2

『生徒指導提要(改訂版)』が示す
これからの生徒指導の基本的方向性

(1) 児童生徒が自発的・主体的に成長・発達する過程を支える意図でなされる教職員の働きかけとしての生徒指導の展開
特定の児童生徒に焦点化した「事後」指導・援助から、全校体制で取り組む全ての児童生徒の「成長・発達を支える生徒指導」への転換

(2) 学習指導と生徒指導の一体化
教科の学びを社会で充実して生きることにつなげる
学習指導における児童生徒の成長・発達を支援する生徒指導

(3) チーム学校による生徒指導体制の構築
組織的・実効的な生徒指導体制の構築
学校と専門家・関係機関及び地域・家庭との連携・協働の強化

出典：生徒指導Ⅰ『生徒指導提要』の改訂をふまえたこれからの
生徒指導の方向性 関西外国語大学 教授 新井肇
独立行政法人 教職員支援機構 2023年3月 一部抜粋・加工

た勤務実態調査の結果が公表された(資料3)。AI(人工知能)を活用したテストの採点システム、教員の事務作業を補助する「教師業務アシスタント」などの支援策がプラスに働いたとされている。しかし、令和5年度末までに残業時間が月80時間を超える教職員の割合をゼロにする目標の達成は今後に持ち越されている。

資料3

著作権保護の
観点により、掲載
いたしません。

出典:山陽新聞 2024年9月4日

(2) 生徒の実態から

授業を通して、自ら学び、発信する力を身につけることで、学習意欲の向上と変化の激しい世の中を歩いていくための力を育てたい。

令和4年度岡山県学力・学習状況調査から、「学校の規則を守っていた。」(質問1)、「自分の将来のために、勉強することは大切だと思う。」(質問2)といった回答に肯定的な意見が多く、学校生活を前向きに過ごす生徒が多いと感じている。しかし、「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している。」(質問3)、「自分には、よいところがあると思う。」(質問4)といった回答には課題があることが判明した。

このような課題から本校生徒は、失敗や間違いを恐れる傾向、また自己表現が苦手な傾向があるのではと考えられる。

<p>質問1 学校の規則を守っていた。</p> <p>プライバシー保護の観点により、掲載いたしません。</p> <p>■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない</p>	<p>質問2 自分の将来のために、勉強することは大切だと思う。</p> <p>プライバシー保護の観点により、掲載いたしません。</p> <p>■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない</p>
<p>質問3 難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している。</p> <p>プライバシー保護の観点により、掲載いたしません。</p> <p>■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない</p>	<p>質問4 自分には、よいところがあると思う。</p> <p>プライバシー保護の観点により、掲載いたしません。</p> <p>■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない</p>

(3) 学校教育目標から

授業において、生徒の主体的で対話的な学びを促す学習活動を効果的に取り入れることにより、習得・活用・探求のプロセスの中で生徒の「主体的に学ぶ態度」を育成することを重視し、自ら考えて発信する力を踏まえたコミュニケーション能力を育てることを目指したい。

本校では、「豊かな心をもち、夢に向かって努力する生徒の育成」を学校教育目標に掲げ、目指す生徒像として、「主体的・協働的に学習に取り組む生徒の育成」（知に関する項目）、「夢に向かって努力し、互いに協力できる生徒」（徳に関する項目）の育成に取り組んでいる。

本研究では、(1)、(2)で示した課題を踏まえ、生徒が「主体的」に学ぶ姿を目指す取組が有効ではないかと考えた。

3 研究の方針

(1) 「授業改善」という視点から

本校は前回（平成28年度）の研究発表以降も、「主体的・対話的で深い学び」の充実に向けて教職員が一丸となって研究を進めている。そのため、本研究にあたっては、今までに蓄積してきた授業スキルをベースとして、「6 研究組織」に示す3つの研究部会での取組を合わせることで本校生徒の課題解決に向かうきっかけづくりとすることとした。

(2) 「働き方改革」という視点から

本研究では研究主題で掲げた目標を達成するため、教職員一人ひとりが思考ツールを作成することを目的の一つとしている。そしてそれらを共有することで、授業者が一から新たな思考ツールを作ることがなくなり、教職員の働き方改革にもつながるのではないかと考えた。

(3) 検証の方法

令和4年入学の生徒を対象に、令和4年度、令和5年度の岡山県学力・学習状況調査の質問紙及び、令和6年度の全国学力・学習状況調査の調査結果と質問紙の結果を分析した。

また、令和4年度入学の生徒を対象に、オンライン・アンケートフォーム作成ツールを用いて、質問を実施したものも含まれている。

（検証結果については、「Ⅱ 研究の内容」及び「Ⅲ 研究の総括」に記載）

4 目指す生徒像

研究により目指す生徒像については次のとおりである。

豊かな心をもち、夢に向かって努力する生徒の育成

5 研究仮説

研究主題に掲げた目標を実現するために、次のような仮説を立て、取組を具体化することとした。

自分の考えをまとめ、表現するツールを活用することで、自ら学び、発信する力を身につけることができるであろう

研究仮説の根拠の1つ目として、「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料に次のような内容が示されている(資料4)。

資料4

(2)「思考・判断・表現」の評価について

「思考・判断・表現」の評価は、各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかを評価するものである。

「思考・判断・表現」におけるこのような考え方は、従前の「思考・判断・表現」の観点においても重視してきたものである。「思考・判断・表現」を評価するためには、教師は「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を通じ、児童生徒が思考・判断・表現する場면을効果的に設計した上で、指導・評価することが求められる。

具体的な評価の方法としては、ペーパーテストのみならず、論述やレポートの作成、発表、グループでの話し合い、作品の制作や表現等の多様な活動を取り入れたり、それらを集めたポートフォリオを活用したりするなど評価方法を工夫することが考えられる。

出典：「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料
文部科学省 国立教育政策研究所 2020年3月 一部抜粋

このように「思考・判断・表現」の評価は、ペーパーテストのみで評価するのではなく、論述やレポートの作成、発表、グループ活動等、様々な方法を取り入れ、評価方法を工夫することが求められていることが分かる。

研究仮説の根拠の2つ目として、「生徒指導提要」では、生徒の自己指導能力を育成することを目指しているとされている。自己指導能力とは、「深い自己理解に基づき、『何をしたいのか』『何をすべきか』、主体的に問題や課題を発見し、自己の目標を選択、設定してこの目標の達成のため、自発的、自律的、かつ他者の主体性を尊重しながら、自らの行動を決断し、実行する力」としている(資料5)。

資料5

2 生徒指導とは何か 一定義・目的・目標一

生徒指導の目標 = 自己指導能力の獲得

生徒指導の目標 =

「自己指導能力の育成」 (『生徒指導提要』2010)

生徒指導の目標 =

「児童生徒が、深い自己理解に基づき、『何をしたいのか』『何をすべきか』、主体的に問題や課題を発見し、自己の目標を選択、設定してこの目標の達成のため、自発的、自律的、かつ他者の主体性を尊重しながら、自らの行動を決断し、実行する力、すなわち『自己指導能力』を獲得することが目指されます。」 (『生徒指導提要(改訂版)』2022)

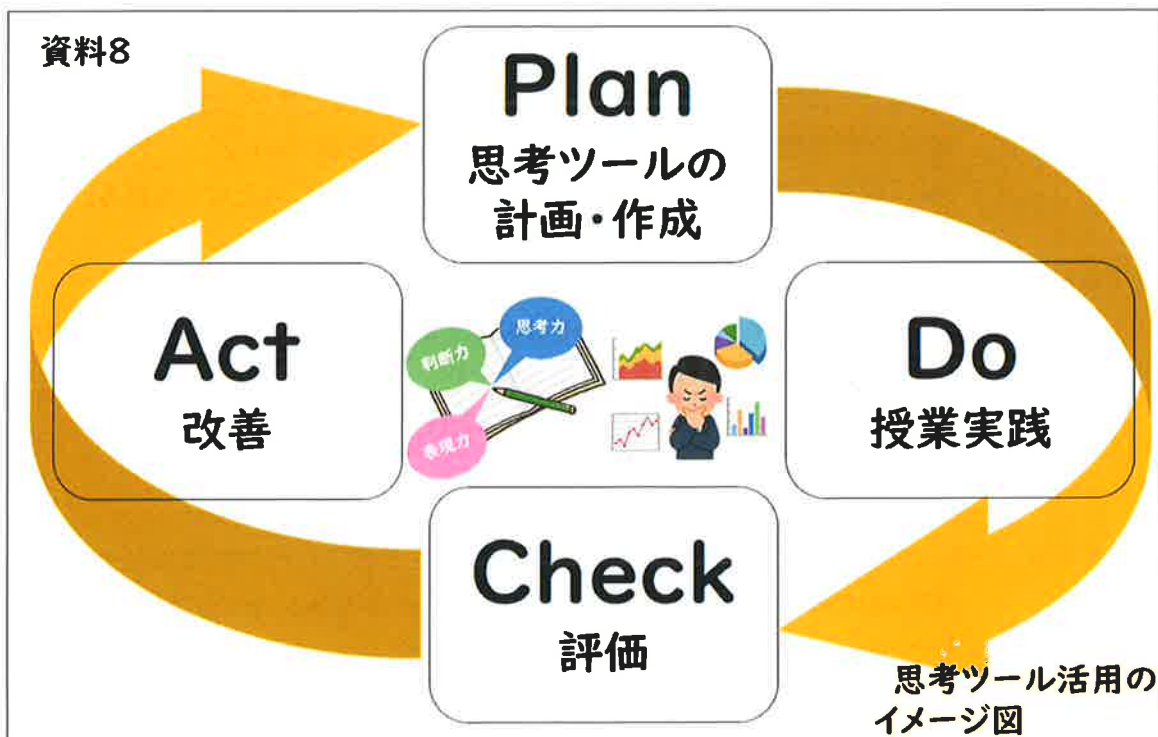
出典：生徒指導 I 『生徒指導提要』の改訂をふまえたこれからの
生徒指導の方向性 関西外国語大学 教授 新井肇
独立行政法人 教職員支援機構 2023年3月 一部抜粋・加工

また、「自己指導能力の獲得を支える生徒指導では、多様な教育活動を通して、生徒が主体的に課題に挑戦してみることや多様な他者と協働して創意工夫することの重要性等を実感することが大切である。」とされており、その上で(1)自己存在感の感受、(2)共感的な人間関係の育成、(3)自己決定の場の提供、(4)安全・安心な風土の醸成の4点が示されている(資料6)。

このうち本研究では「(3)、自己決定の場の提供」に着目し、研究主題に迫っていくこととした(資料7)。

資料6	資料7
2 生徒指導とは何か 一定義・目的・目標ー	2 生徒指導とは何か 一定義・目的・目標ー
<p>児童生徒が自己指導能力を身につけるための 生徒指導の実践上の視点</p>	<p>(1) 自己存在感の感受： 一人ひとりの児童生徒をかけがえない存在と捉え、個性や独自性を大切に</p>
<p>「自己指導能力の獲得を支える生徒指導では、多様な教育活動を通して、児童生徒が主体的に課題に挑戦してみることや多様な他者と協働して創意工夫することの重要性等を実感することが大切です。」 (『生徒指導提要(改訂版)』2022)</p>	<p>(2) 共感的な人間関係の育成： 自他の個性を尊重し、相手の立場に立って考え、行動できる協力的な人間関係を学級の内外に築く</p>
<p>↑</p> <p>(1) 自己存在感の感受 (2) 共感的な人間関係の育成 (3) 自己決定の場の提供 (4) 安全・安心な風土の醸成</p>	<p>(3) 自己決定の場の提供： 自ら考え、選択し、決定し、行動する(発表・制作など)経験が得られる機会を意図的に設定する</p>
	<p>(4) 安全・安心な風土の醸成： お互いの個性や多様性を認め合い、安心して授業や学校生活を送ることができる風土をつくる</p>
	<p>出典：生徒指導Ⅰ『生徒指導提要』の改訂をふまえたこれからの生徒指導の方向性 関西外国語大学 教授 新井肇 独立行政法人 教職員支援機構 2020年3月 一部抜粋・加工</p>

全教員が思考ツールを用いることで、自ら考え、選択し、決定し、行動する活動を通して、生徒が知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力を身につけているかを見とることができるよう、計画・作成、授業実践、評価、改善を重ねていくこととした(資料8)。



6 研究組織



本研究では授業研究部会、特別活動部会及びICT環境部会の3つの研究部会を編成し、研究主題に迫る取組を行うこととした。

授業研究部会・・・「主体的・対話的で深い学び」を効果的に取り入れた、授業づくりの推進（特別の教科道徳及び家庭学習を含む）。

- ・思考ツールの作成を通して、「主体的・対話的で深い学び」の充実を図る。
- ・グループ学習での役割の明確化（司会・記録・発表・ヘルプ）。
- ・NIE教育の充実によって、生徒一人ひとりの表現力の向上につなげる。

特別活動部会・・・学年を越えた取組や学校外での活動の推進。

- ・生徒会執行部を中心に、金光町の取組である、「みかげマルシェ」をより活気あるものにする方法を検討、実践していく。
- ・地元企業とのコラボ商品の企画・開発を提案。
- ・委員会活動の見える化。

ICT環境部会・・・生徒の表現力の向上と教職員の働き方改革を見据えたICT機器活用の推進。

- ・Google Workspace、Canva、Jamboard、Figma、などを活用し、毎時間Chromebookを活用した授業を実践していく。

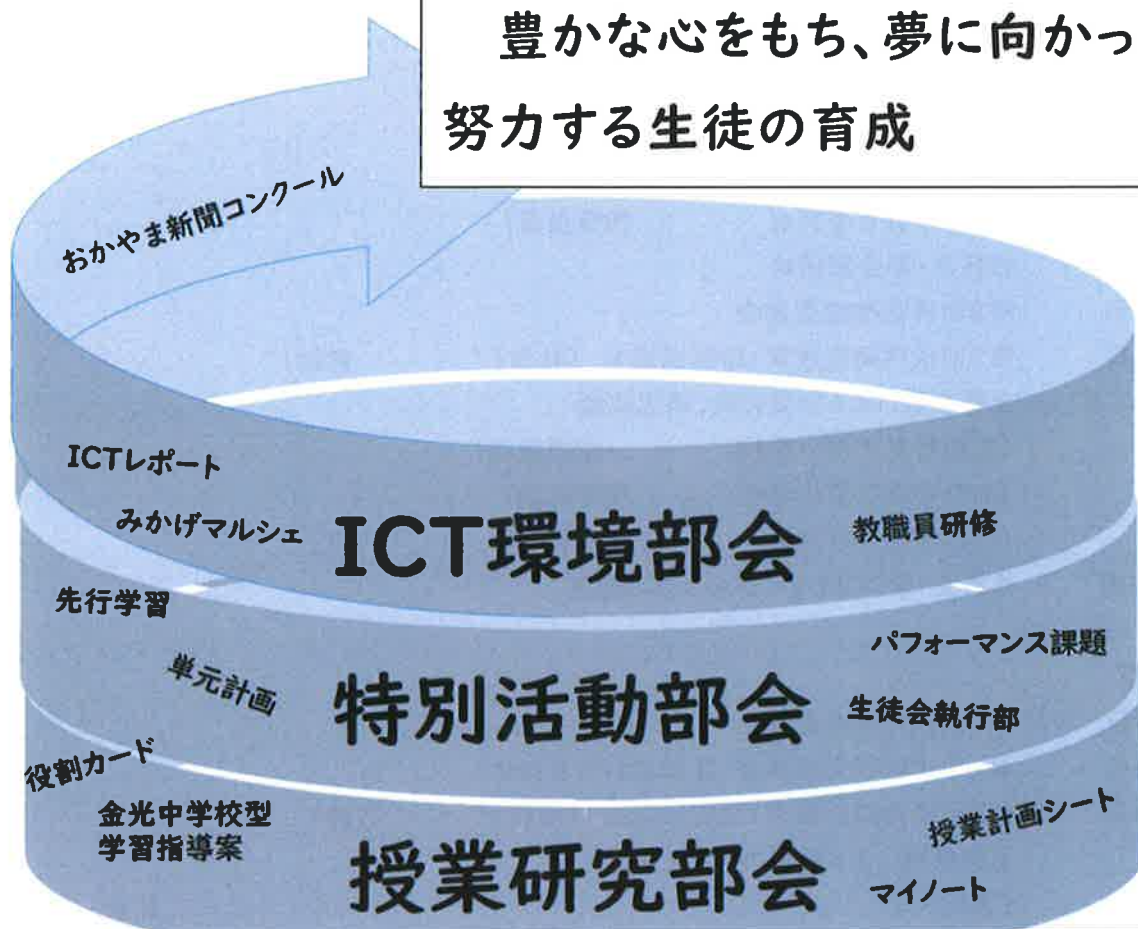
7 研究構想図

研究主題

「主体的・対話的で深い学び」の充実
～自ら学び、表現する活動を通して～

目指す生徒像

豊かな心を持ち、夢に向かって
努力する生徒の育成



研究仮説

自分の考えをまとめ、表現するツールを活用することで、自ら
学び、発信する力を身につけることができるであろう

金光中学校研究のイメージ図

8 研究の過程

令和5年度	
5月18日	第1回研究推進委員会
5月30日	第1回校内研究全体会・各部会打ち合わせ
7月12日	第1回校内研究授業・研究協議会 [理科] (教諭) 全員参観による授業の後、研究協議 (岡山教育事務所 指導主事) (浅口市教育委員会 指導主事)
7月19日	教科会・部会別研修
8月31日	夏季校内研修(非認知能力) (岡山大学 准教授)
9月 6日	第2回研究推進委員会
9月13日	ICT活用校内研修
12月 6日	第2回校内研究授業・研究協議会 [音楽科] (教諭) 全員参観による授業の後、研究協議 (岡山教育事務所 指導主事) (浅口市教育委員会 指導主事)
12月22日	教科会・部会別研修
1月24日	第3回研究推進委員会
1月31日	第3回校内研究授業・研究協議会 [社会] (教諭) 全員参観による授業の後、研究協議 (矢掛町立矢掛中学校 指導教諭) (高梁市立有漢中学校 指導教諭) (浅口市教育委員会 指導主事)
3月12日	教科会・全体まとめ(部会からの報告)
令和6年度	
4月 8日	第1回研究推進委員会
4月24日	第1回校内研究全体会・各部会打ち合わせ
6月13日	第2回校内研究授業・研究協議会 [理科] (教諭) 全員参観による授業の後、研究協議 (香川大学 先生)
10月上旬	研究紀要完成
11月 8日	研究発表
12月以降	令和6年度の取組の総括 各取組の継続的实施 各取組の見直しと次年度への準備

II 研究の内容

Ⅰ 授業研究部会

(1) 部会の研究方針

授業研究部会では、サブテーマに示した「～自ら学び、表現する活動を通して～」の視点を各教科で実践することにより、「主体的・対話的で深い学び」の定着を目指した。

そのため、全教員が思考ツールを作成することなどを通して、金光中学校型の学習スタイルを構築することとした。また、思考ツール等を校内で共有することで、教職員の働き方改革につなげていくことも目指した。

(2) 具体的な取組

① 金光中学校型学習指導案

本時案の中に、簡易的な指導計画を入れることで、金光中学校型学習指導案とした。

本校では、年に1度の公開授業が必須となっている。地域によっては簡易版の学習指導案も増えてきているため、指導案作成上の負担軽減と、指導案が1枚にまとまっている方が見やすいのではないかとの考えから作成した。

研究主題を常に意識できるよう、指導案には生徒を支える働きかけや研究と関連する手立てを盛り込むことで、単元を通して身につけさせたい力を明確に示すことにもなった。

② 授業計画シート

1時間の授業のイメージを具体化させて、授業に臨むことを目的に作成した。

生徒の反応メモと改善案の欄を設けることで、次時の授業改善の目的も大きく果たすことができると考えた。授業者が授業中にメモを取ることで、自身の授業を振り返る時に効果的であると感じた教員もいた。

③ 役割カード

4人一組(3人でも活動できる)のグループワークで活用することを想定し、それぞれに役割を与え、スムーズかつ活発な活動になることを目指した。司会・発表・記録・ヘルプ(司会・発表・記録が欠席時のサポート役)に分けることとした。

④ 先行学習(先行課題)

家庭学習の充実のためにも効果的であると考えた。

岡山県教育委員会が発行している「家庭学習指導のすすめ」にも「授業とつながる家庭学習の課題を出す」ことに意識を置いた方法が示されている。

そのため本校では、家庭学習を設定するうえで次の2点を大切にしつつ、先行学習(先行課題)という形で家庭学習の充実を図った。1点目は生徒が学習内容に関して、「なぜ

だろう」と疑問をもったうえで授業を受けられること。2点目は授業者にとって、負担を増やさないこととした。

⑤ 単元計画

単元や題材の内容を通して、単元の指導と評価の計画を作成し、どの時間に何を評価するのかを整理することとした。さらにどの部分で表現力を身につけさせるかを明確にすることで、生徒にとっても教員にとっても先の見通しをもって授業を行いやすくなることを目指して作成した。また、必ず「単元を貫く問い」を設定することとしている。

⑥ マイノート

授業者が発したことや、グループで考え、発表する場面などで大切だと思ったことを自由にまとめるスペースと振り返りを一体化させたものである。これによりメモをとる習慣や自分でまとめる力を磨くこと、さらに振り返りは80字程度、2文以上で書くことをルールとして設定(R80)することで、「短文で、結論を先に、分かりやすく」書くことが意識付けられるのではないかと考えた。

⑦ 単元末に行うパフォーマンス課題(イメージマップ・発展課題)

単元末にはパフォーマンス課題を設定した。授業研究部会ではパフォーマンス課題を「様々な知識やスキルを総合して活用することを求めるような、複雑な課題」と定義した。

単元末には応用問題や復習テストを行う場合があるが、パフォーマンス課題は、その単元までに身についた資質・能力を活用して、課題解決にどのように対応できるかを見とるために、単元の初めに提示し、単元の終わりに取り組むこととした。

⑧ おかやま新聞コンクール

株式会社山陽新聞社が小中高校生を対象にした「おかやま新聞コンクール」に本校は一昨年度、昨年度と取り組んできており、今年で3年目である。

昨年度と今年度は1学期後半に、山陽新聞社読者局共創本部教育サポートセンターの方(新聞記者)に出前授業を依頼し、新聞の書き方だけでなく、新聞の構成、読み方、新聞記者とはどのような仕事をするのかなど、多岐にわたる話をいただき、生徒は一人ひとりがマイノートを使ってまとめ、振り返りを行い、新聞を作成した。

⑨ 教職員研修

岡山教育事務所、浅口市教育委員会並びに、岡山県授業改革推進チーム(西備チーム)の先生方から多くの指導助言をいただいている。

また、今年度は香川大学

より指導助言をいただき、研究主題に迫っている。

① 金光中学校型学習指導案

指導計画を簡素化し、指導案作成の負担を減らした。

第〇学年〇組 〇〇科学習指導案	
令和6年〇月〇日(木) 第〇校時 場所 〇年〇組教室 指導者 〇〇 〇〇〇	
単元名	
指導計画	第一次 〇〇〇〇〇〇 . . . 時間(本時は第〇時) 第二次 〇〇〇〇〇〇 . . . 時間 第三次 〇〇〇〇〇〇 . . . 時間
本時案(指導計画 第〇次 第〇時)	
⑦ 本時の目標	〇 ~することができる。 [〇〇・〇〇・〇〇]

学習活動	教師の指導・支援	学習評価
1 (〇分)	各活動の時間を示すことで、授業者がタイムマネジメントできる。	
2 (〇分)		
3 (〇分)	めあて ~できる。	
4 (〇分)		
① 5 ~する。 (1)個人で考える。 (2)グループで考える。 (3)全体で考える。 (〇分)	⑨ 「努力を要する」状況(C)と判断される生徒への手立てを示す。 考察がしにくい生徒に関しては、~考察しやすくする。 生徒の記述予想：「〇〇」など。	⑨ 〇 ~している。 [〇〇・〇〇・〇〇] (評価するものを入力)
	まとめ	
7 (〇分)		
⑩ ⑨「おおむね満足できる」状況(B)と判断する生徒の姿の例		~している。

グループワークは
(1)個人で考える。
(2)グループで考える。
(3)全体で考える。
の3点を基本とした。(〇分)

⑦本時の目標、①目標を達成するための活動、⑨学習評価、⑩「おおむね満足できる」状況(B)を示し、評価方法に一貫性をもたせている。

② 授業計画シート

2024/10/4 作成

授業計画シート

____年 教科名

単元名	問いたい資質・能力	ワークシートの有無	意識したゲーム	生徒の振り返り方法	自己評価 (100点中)
授業 タイトル	<input type="checkbox"/> 知・技 <input type="checkbox"/> 思・判・表 <input type="checkbox"/> 字・画・力	有・無			

板書計画書 授業計画

板書計画と電子黒板の使用方法のイメージ図を明記する。

特にどの部分で表現力をつけさせるかを示す。

生徒の発見メモ

次時の授業に向けてだけでなく、生徒の様子をメモすることで、生徒指導にも役立てたい。

改善案

③ 役割カード

グループワークを基本的に4人一組で行うことを想定して、役割カードを作成。それぞれが責任をもって活動している様子が伺えた。



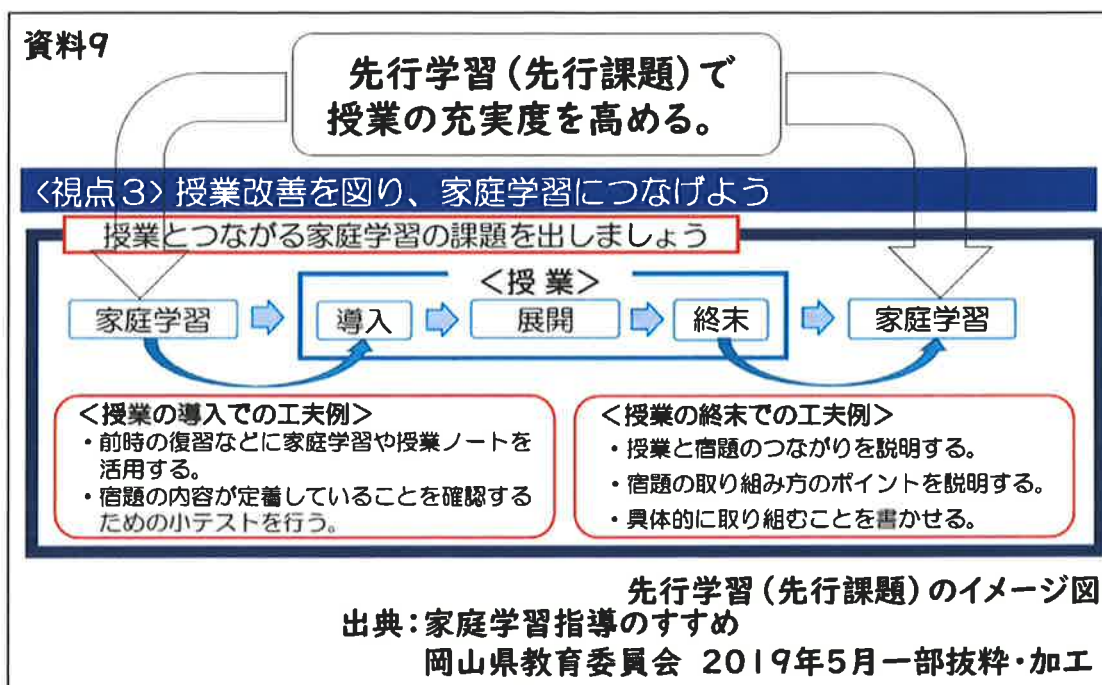
<p>プライバシー保護の観点により、掲載いたしません。</p>	<p>プライバシー保護の観点により、掲載いたしません。</p>
---------------------------------	---------------------------------

役割カードを用いた様子(一部)

④ 先行学習（先行課題）

先行学習（先行課題）とは、「これから学習する内容を、予備知識として事前に与えて、先行オーガナイザーとして、意欲的かつ焦点的・分析的な見方で学習対象へ迫り、共同的な学習及び知識獲得を確実にする指導法である。

この指導法は2つの利点がある。1点目は、発見学習と有意味受容学習（これから学ぶ学習内容の総括的な情報を生徒に事前に与え、知識と学習内容を関連づけて学習すること）とのバランスを取ること。2点目は家庭学習も含めた学習サイクルを構成して、確かな学力の定着を図る指導法となりうることである（資料9）。



本校では、全教員が家庭学習の充実度を高めるために先行学習（先行課題）を用いている。

生徒にとって、先行学習（先行課題）を通して「なぜ疑問」を抱いて授業へ臨むことで、学習内容がより定着していくのではないかと感じている。また教員にとっても、「学びを委ねる授業」を実践しやすくなるのではないかと考えている。

次に示すのは、先行学習（先行課題）として行っているものの一例である。

- ⑦ 次時で活用するワークシートの穴埋めを行う。
- ① NHK for school の該当箇所を視聴してくる。
- ⑦ 教科書の該当ページを読んてくる。
- ⑤ クラブルームに陸上競技のポイントとなる動画をアップし、事前に視聴しておく。

先行学習（先行課題）を継続していくために生徒にも、教員にも負担感のないものを検討していきたい。

⑤ 単元計画

単元とは、生徒の学習過程における学習活動の一連の「まとまり」という意味である。単元計画の作成は、教師が意図やねらいをもって、この「まとまり」を適切に生み出そうとする作業である。

授業者に十分な実践経験が蓄積され、すでに単元計画が存在する場合でも、改めて目の前の生徒の実態に即して、単元づくりを行う必要がある。

単元計画の作成は、中心となる活動を思い描く単元構想の出発点として、「生徒の興味・関心」、「教員の願い」、「教材の特性」の3つの視点からとらえることとした(資料10)。

- (ア) 生徒の実態や興味・関心を出発点とすることで、生徒の主体的な活動が保障できる。
- (イ) 教員の願いを出発点とすることで、どんな内容について学ばせたいのか、どんな資質や能力及び態度を身につけさせたいのかを明確にした単元計画が可能となる。
- (ウ) 教材については、生徒の学習を動機付け、方向付け、支える学習の素材ととらえううえで、教材の特性を出発点とすることにより、どのような問題解決や探究活動を行うことができるか、明確に見通すことができる。その際、横断的・総合的な学習になるように意識することとした。

資料10

著作権保護の観点により、
掲載いたしません。

次に示したのは、単元計画の一例である。

<p style="text-align: center;">ヨーロッパ州 教科書P. 66 ~P. 81</p> <p>単元の目標(身に付けてほしい力)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ヨーロッパ州の地域的特色に関する地図や統計資料などの様々な資料を活用しながら、国家統合という主題を基に特色を理解し、その知識を身に付けることができる。 ○ヨーロッパ州の地域的特色について多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現するとともに、今後予想されるEUの変化について学習内容を基に判断することができる。 ○EUによる国家統合に対する関心を高め、ヨーロッパ州の地域的な特色を意図的に追究することができる。 <p>各時間の目標</p> <p>ア. 68 - 69 1 なぜヨーロッパは北にあるのに温暖なのか考えよう。 イ. 70 - 71 2 キリスト教の圏を3つ見つけよう。 エ. 72 - 73 3 EUに加盟することで起こった変化を3つ以上見つけよう。 オ. 74 - 75 4 ヨーロッパで行われている農業を3つ見つけよう。 カ. 76 - 77 5 ヨーロッパの工業の課題について考えよう。 ケ. 78 - 79 6 EUが抱える課題を見つけよう。 コ. 80 - 81 7 EUの将来について学習した内容を基に予測しよう。</p> <p>評価基準</p> <p>知識・技能</p> <p>ア ヨーロッパの自然環境や文化の特色を資料から読み取ることができる。 イ ヨーロッパの工業における国家統合の影響について理解している。 ウ ロシアとヨーロッパの地域的な隣り付きについて理解している。</p> <p>思考・判断・表現</p> <p>ア EUの特色と関連させて利点と課題について考えている。 イ ヨーロッパの農業の特色について地図に表現している。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度</p> <p>ア 環境問題を基に持続可能な社会への関心を高め、環境問題の解決に向けて主体的に考えようとしている。 イ 学習した内容を基に、今後のEUのあり方について、意図的に予測しようとしている。</p> <p style="text-align: center; font-size: small;">評価基準を見て、単元終了後に自分自身を評価してみよう! (該当箇所)に○を付けよう。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%; border: 1px solid black; padding: 2px;">「十分満足できる」状況と判断されるもの:A</td> <td style="width: 33%; border: 1px solid black; padding: 2px;">「おおむね満足できる」状況と判断されるもの:B</td> <td style="width: 33%; border: 1px solid black; padding: 2px;">「努力を要する」状況と判断されるもの:C</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; border: 1px solid black;">A・B・C</td> <td style="text-align: center; border: 1px solid black;">A・B・C</td> <td style="text-align: center; border: 1px solid black;">A・B・C</td> </tr> </table>	「十分満足できる」状況と判断されるもの:A	「おおむね満足できる」状況と判断されるもの:B	「努力を要する」状況と判断されるもの:C	A・B・C	A・B・C	A・B・C	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p style="text-align: center;">単元を学ぶ問い</p> <p style="text-align: center;">10年後、EUはどのようになるのか予測しよう。</p> </div> <div style="text-align: center; margin-bottom: 5px;">↓</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p style="text-align: center;">「単元を学ぶ問い」から疑問に思ったこと。 問いの解決のために役立つような既習事項。</p> </div> <div style="text-align: center; margin-bottom: 5px;">↓</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p style="text-align: center;">学習前: 「単元を学ぶ問い」に対する答えの予想。</p> </div> <div style="text-align: center; margin-bottom: 5px;">↓</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p style="text-align: center;">学習後: 「単元を学ぶ問い」の答えを論述しよう。</p> </div> <div style="text-align: center; margin-bottom: 5px;">↓</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">学習前と学習後の記述内容を比較して、考えが深まったり変化したことを書こう。</p> </div>
「十分満足できる」状況と判断されるもの:A	「おおむね満足できる」状況と判断されるもの:B	「努力を要する」状況と判断されるもの:C					
A・B・C	A・B・C	A・B・C					

⑥ マイノート

1 ヨーロッパ州の自然環境 ★教科書p68～89 ☆ワークp42～43

マイノート

年 組 番 氏名



・先生の発言した内容など、メモしておいた方がよいことなどを自由に記入してください(評価に入れるかも...)。
 ・時々、補足資料を載せることもあります!!

生徒が授業を通して大切だと感じたものを自由にメモし、まとめておく自由記入欄として設定した。

授業の振り返り

【条件】①二文以上で書くこと。

【条件】②文のつなぎ目には、接続語を入れること(だから、つまり、それから、だが、など。「なので」は×)。

◇「忘れ物」:忘れ物をしなかった場合「○」、忘れ物をした場合は「×」を記入する。

◇「集中度」:授業への集中度【高い 4・3・2・1 低い】

◇「めあて」:めあてのわかりやすさ【わかりやすい 4・3・2・1 わかりにくい】

◇「指示」:指示のわかりやすさ【わかりやすい 4・3・2・1 わかりにくい】

自己評価

授業評価

月・日	自己評価		授業評価		授業の振り返りは、今日の授業で学んだこと、分かったこと、できたこと、考えたことなどを自分の言葉で書こう。 ポイント!!! (こんな感じのことが書けているといいな...)	評価
	忘れ物	集中度	めあて	指示		
					①この1時間で身に付いた学習内容。 ②今までに学習した内容のつながり(共通点, 相違点)。 ③学習前と後での自分の考えの変化。 ④周りの人と交流したことで広がった自分の考え方。	
今日のキーワード						

評価について

A	Bの基準を満たし、学習内容を深められていると判断される場合。	
	1: 今までに学習した漢字、教科書に出ている用語などを漢字で書けていること。	できていればチェックを入れよう✓
	2: 条件①、②が含まれていること。	できていればチェックを入れよう✓
B	3: キーワードを用いていること(色ペンで変えていること)。	できていればチェックを入れよう✓
	4: 80字以上、102字以内であること。	できていればチェックを入れよう✓
	5: その他、授業中に伝えた基準で記入できていること。	できていればチェックを入れよう✓
C	Bの基準に達していないと判断される場合。	
N	判定不能。	

R80 (80字程度、2文以上で書くこと) ことを条件にしている。

評価方法も細かく設定することで、文章を書くうえで、生徒自身が書き方のパターンを身につけることができる。

マイノート活用の利点

(ア) ワークシートとの併用で、見開きで学習内容を把握しやすいノートを作ることができる。

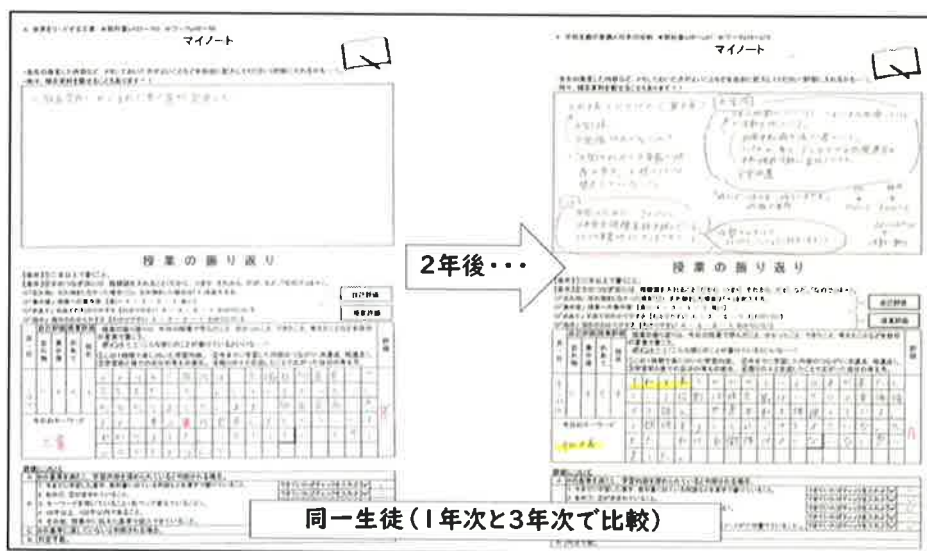
「家庭学習の充実に向けて」(岡山県教育庁義務教育課 2015年11月発行)にも「学習を振り返られるノートの作成」について示されている。

次に示す形(ワークシートとマイノート)を1時間の授業として、毎時間実践することで、学習内容を振り返りやすくしている。



(イ) 生徒の変容が把握しやすい。

何をまとめるのか自ら考え、選択し、決定し、行動(記入)させ、表現する機会を意図的に設定している。毎時間行うことで、自分の考えを表現することに抵抗を感じなくなり、自信がついている様子が分かる。



(ウ) 不登校傾向の生徒へも対応しやすく、評価に取り入れやすい。

起立性調節障害など様々な理由で登校しにくい生徒でも、自身のタイミングでまとめ、提出することができる。また生徒自身がまとめているため、評価(思考・判断・表現)に取り入れやすい。

4 早稲と日本の役割と日本の役割 *教科書p46-47 *ワーク10-19
マイノート

7 早稲と日本の役割と日本の役割 *教科書p46-47 *ワーク10-19
マイノート

授業の振り返り

授業の振り返り

不登校傾向のある生徒のマイノート

(エ) 掲示物として活用

現在、本校西階段にマイノートを掲示している。良い作品を見て、各自がマイノート作成時に取り入れることで、表現力の向上につなげている。掲示物を見ながら、「このまとめ方が分かりやすい」「次年度にはこんなことを学習するのか」などと発言している様子を何度も見かけた。掲示された生徒の自信にもつながっているのではないかと感じる。



プライバシー保護の観点により、掲載いたしません。

本校西階段2~3階の掲示板

⑦ 単元末に行うパフォーマンス課題（イメージマップ・発展課題）

パフォーマンス課題は、論述やレポート作成等、多様な活動を単元に設定し、多面的・多角的な評価を行っていくことができる

とされている。(資料11)。
そこで授業研究部会において、単元を貫く問いに沿ったパフォーマンス課題を作成することとした。

パフォーマンス課題は、「思考・判断したことを論述(表現)する」ことを念頭に置き、単元を貫く問いに学習内容を結びつけて考えることを課題に設定している。

学習内容と日々の生活との関連が意識づけられる課題を設定することで、個性の伸張・社会性の獲得につなげていけるのではないかと考えた(資料12)。

以下に示すのは、その一例である。



これにより、テストだけでは評価しきれない「学習したことを活用して課題を解決していく力」を「思考・判断・表現」に評価づけることができたと感じている。

資料11
「パフォーマンス評価」と「パフォーマンス課題」

学習評価を行う上で、次のような疑問はないでしょうか。

このように、ペーパーテストでは、獲得した知識や技能を、状況に応じて使いこなすことができるかどうか十分に評価できないことがあります。そこで、資質・能力のバランスのとれた学習評価を行っていくために、「パフォーマンス評価」を取り入れることをお勧めします。

「パフォーマンス評価」を行うために、論述やレポートの作成、発表、作品の制作等といった多様な活動(パフォーマンス課題)を単元に設定します。これによって、ペーパーテストの結果にとどまらない、多面的・多角的な評価を行っていくことができます。

- パフォーマンス評価とは**
 - 知識や技能を使いこなす(活用・応用・創発する)ことを求めるような課題により、理解の深さを把握する評価方法
- パフォーマンス課題とは**
 - 様々な知識やスキルを統合して使いこなす(活用する)ことを求めるような、複雑な課題
 - 具体的には、論述文やレポート、展覧物といった完成作品(プロダクト)や、スピーチやプレゼンテーション、実践の演習といった表現(技能のパフォーマンス)を評価する課題

出典：下越教育事務所 学校支援第2課 Teachers 2022プラス 第3号 2022年12月 一部抜粋

資料12
3 これからの生徒指導の方向性

授業に内在化した生徒指導

授業のなかに、知識や思考力を育て学力を高めるだけではなく、児童生徒が個性を伸ばし社会性を身につけるように働きかける生徒指導の視点を意識して組み込んでいく。

- 教室での「教科の学び」

生徒指導の実践上の視点を意識する

- 自己存在感の感受
- 共感的な人間関係の育成
- 自己決定の場の提供
- 安全・安心な風土の醸成

「個性の伸張・社会性の獲得」につなげる
社会で充実して生きる (well-being)

出典：生徒指導Ⅰ『生徒指導提要』の改訂をふまえたこれからの生徒指導の方向性 関西外国語大学 教授 新井肇 独立行政法人 教職員支援機構 2023年3月 一部抜粋・加工

ヨーロッパ州発展課題

EU加盟を継続?それとも離脱?

習熟度テスト対策

⑧ おかやま新聞コンクール

生徒の表現力向上を目的に本校では、おかやま新聞コンクールに以下のような流れで作品を出品している。

- (ア) 山陽新聞社読者局共創本部教育サポートセンターの方(新聞記者)による出前授業で新聞の書き方等のレクチャーを受ける。その際、マイノートに大事なことをまとめる。
- (イ) 夏休みの課題として新聞を作成する。
- (ウ) 2学期に各クラスで掲示の後、オンライン・アンケートフォーム作成ツールを用いて、自身が新聞作成で特に意識したこと、どの新聞が一番良かったか、選んだ理由、今後の新聞づくりに活かしていこうと思うことを入力する。

プライバシー保護の観点により、掲載
いたしません。

著作権保護の
観点により、掲載
いたしません。

2024年6月4日
山陽新聞社出前授業の
様子

この活動が生徒の自己有用感につながり、後述のアンケート結果にもあるように「より人を引き付けるような新聞づくりができる」「新聞を作ることによって、文章を書く力やまとめる力がついて、調べることで物事や世間について知ることができた」といった「表現したい」という気持ちにつながったと感じる。

本校は、2年連続で10名以上の入賞者と山陽新聞山陽会代表理事賞(学校賞)を受賞している。外部から学校全体の取組が評価されていることは生徒だけでなく、全教職員の努力もあってのことで、「チーム金中」の取組になっていると感じる。

プライバシー保護の
観点により、掲載
いたしません。



受賞作品の一部と学校賞

⑨ 教職員研修

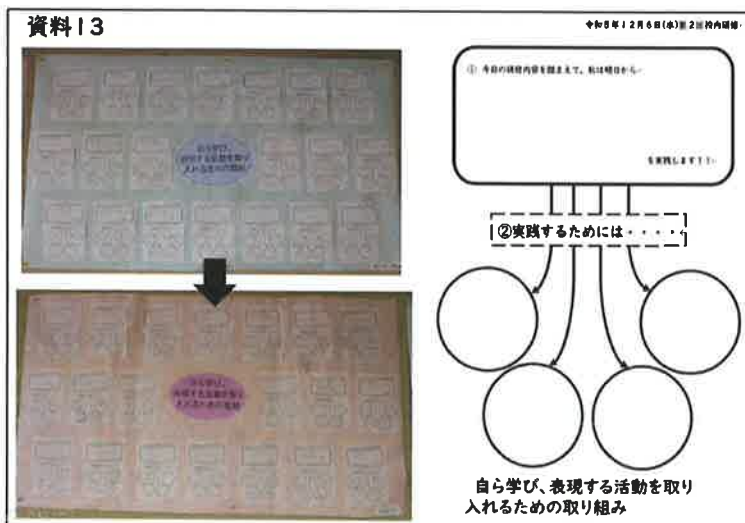
本校では、年に1度の公開授業を通して、研究主題に迫った授業を展開している。また夏季研修等、多くの研修の場を設定してきた。

その際、岡山教育事務所、浅口市教育委員会並びに、岡山県授業改革推進チーム（西備チーム）の先生方から多くの指導助言をいただいている。

昨年12月には研究発表会に向けて、サブテーマに示した「～自ら学び、表現する活動を通して～」をそれぞれがどのように実践していくかを検討した（資料13）。

教職員一人ひとりがサブテーマを実現するために何に力を入れるのか、またその手段についてクラゲチャートに記入した。

さらに今年1月には、取組の検証（PDCA サイクル）を4人一組のグループで行い、再度クラゲチャートに記入した上で、思考ツールを作成することとした。



記入したクラゲチャートは職員室の入り口に掲示することで、他の教員の取組を知ることができ、授業力の資質向上にもつながったと感じている。

6月には植田先生を研修に招き、「授業の山場を子どもの姿でイメージできているか」という点から、本時の中心となる活動や発問に対しての予想される生徒の発言や反応を具体的にイメージした上で1時間の授業を検討していくことが重要であるご教示いただいた。

プライバシー保護の観点により、掲載いたしません。

(3) 反省・今後の取組

授業研究部会としての取組は一定の学習効果があったのではないかと感じている。また、生徒のアンケート結果などからも「主体的・対話的で深い学び」にもつながっているようである。全国学力・学習状況調査や岡山県学力・学習状況調査を踏まえた検証結果については、「Ⅲ 研究の総括」で触れることとする。

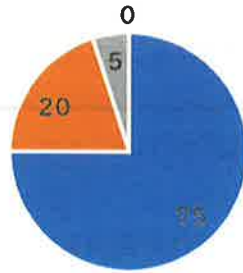
さらに、おかやま新聞コンクールでの結果からも分かるように、校内だけで評価しているのではなく、外部から評価を受けられたことで、全教職員での取組が形となりつつあると感じている。

しかし、まだ思考ツールもそれぞれが活用し始めたばかりであり、今後さらにブラッシュアップしていきながら、生徒の実態に合わせて変化させていき、場合によっては新たに作り直すことも必要ではないかと感じる。そのため、教職員間で共有し、活用していくまでには時間がかかり、働き方改革の改善につながるのかは、今後に持ち越さなくてはならないと感じている。

さらに授業づくりにおいては、高めたい力に焦点を当て、思考に必要な手立てを講じることで、生徒がより主体的に考えていくことができたのではないかと考える。思考ツールは授業において、主体的・対話的で深い学びを実現するための一つの手段である。活用した思考ツールが適していたのかを生徒の活用能力から検証し、授業改善や単元構成の検討を行うことも必要である。生徒が主体的に授業に参加し、思考ツールを用いて自ら考え、選択し、決定し、行動し、グループワーク等で共有したものを再構築するなど、対話的な学びを引き出す授業づくりを今後も目指していきたい。

次ページからは、2024年10月11日に令和4年度入学生（現3年生）を対象に、オンライン・アンケートフォーム作成ツールを用いて行った調査の結果とコメントのいくつかを掲載する。

調査1 役割カードを使ってグループワークを行うことをどのように思いますか。



- 良いと思う
- どちらかと言えば、良いと思う
- どちらかと言えば、良くないと思う
- 良くないと思う

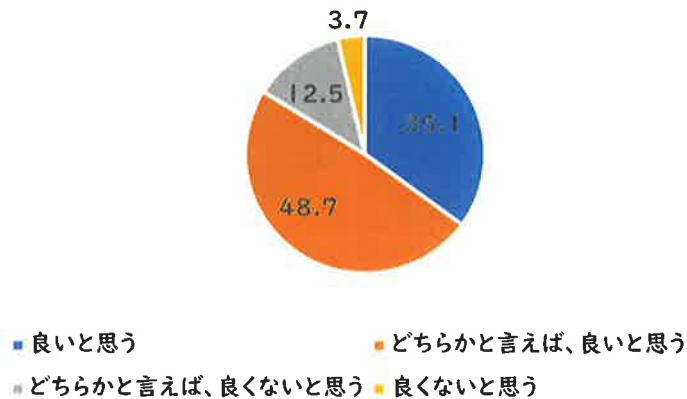
主なコメント(良いと思う・どちらかと言えば良いと思う)

- ・みんなが平等に役割をすることができる。
- ・役割分担があることで、みんながグループの話し合いに参加できる。
- ・責任をもつことで、話し合いに参加する本気度が上がると思う。
- ・自分がいつ当たるかが面白い。急に当てられて前で発表するから面接の役に立つ。
- ・1つの役割を同じ人がするよりも、話し合いに積極的に参加しやすくなると思う。
- ・どの役割になってもやらなければならないことがあるから。
- ・役割カードを使わなかったら、誰がどの役割をするかを決めるのに時間がかかる。
- ・いつも誰かに発表を押しつけるということがないから。
- ・役割カードがないと毎回同じ役割になる人が出てくると思う。
- ・司会が決まっていると話し合いがスムーズに進む。
- ・ヘルプがあるので、安心してきて良いと思う。
- ・発表が苦手な人も発表する機会ができ、みんなが順番に役割が変わるので公平。
- ・役割が決まっている方が話し合いを進めやすいと思う。
- ・役割を早く決められるし(効率)、全員が役割を担う、しかも毎回違う役割だから。
- ・他の人が役割を果たすためにどうしているのかを知ることができ、次に生かせる。

主なコメント(どちらかと言えば良くないと思う・良くないと思う)

- ・指定されているとその役目しか果たさないことになってしまうので、役割カードがない方が、グループの人と話して決められるのでより良いと思う。
- ・自分たちで役割を決めて行う方が、会話がが増えて関わりが多くなる。
- ・役割を担当の人に任せすぎになっていることがあるから。

調査2 先行学習(先行課題)について どのように思いますか。



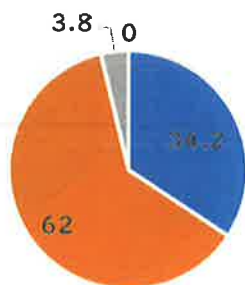
主なコメント(良いと思う・どちらかと言えば良いと思う)

- ・グループワークの時間が長めにとれる。
- ・先行学習を行う方が、授業を受ける時に内容が入ってきやすい。
- ・事前に解くことで、グループワークも長くできるし、授業中が復習の時間になり、深く学べる。
- ・マイノートに取り組むことができる時間が増えるから。
- ・事前に解けば予習にもなるし、グループで話し合える時間が取れると思う。
- ・疑問に思った内容を事前に調べることができ、マイノートを書く時間が増える。
- ・次の授業の時に問題が分かるようになったから。
- ・授業の内容がある程度分かった状態で進められて、理解が深まりやすい。
- ・予習をして分からなかったところは、先生の説明を聞くことでポイントを理解できる。
- ・あまり負担にならないし、話し合いの時間が増えていいと思う。
- ・グループワークの時間が増えて、分からないところを詳しく知ることができる。さらに、友だちの意見を聞いて考えを深めやすかった。
- ・宿題の量が増えるのは、テスト期間中や行事の近くときは大変だが、先生の説明やグループ活動の時間が増えるのはいいと思うし、より内容が理解しやすくなる。

主なコメント(どちらかと言えば良くないと思う・良くないと思う)

- ・事前に解く時間を作らないといけないから。
- ・授業中でないとやる気にならないから。他の宿題もあるのに増えると大変。
- ・家に持って帰ったら無くしてしまいそう。
- ・ワークシートを忘れたときに困る。

調査3 単元計画が配られることを どのように思いますか。



- 良いと思う
- どちらかと言えば、良いと思う
- どちらかと言えば、良くないと思う
- 良くないと思う

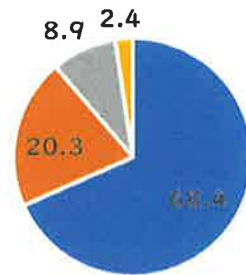
主なコメント(良いと思う・どちらかと言えば良いと思う)

- ・単元ごとに身につけるべき力と覚えるべき内容が整理されていることが良い。
- ・単元計画があることで、テストやワークの提出期限を意識できていたから。
- ・自分が単元を通して設定した目標が果たせたのかなど、書き残すと後の自分のためになる。
- ・単元で何をしていくのか分かりやすいので、予習がしやすい。
- ・始めにどのような内容を学習するのかが分かり、予習がしやすい。
- ・ノート整理がしやすくなるから。なんとなくモチベーションが上がるような気がする。
- ・事前に大まかな流れを知っておきたい。
- ・勉強する習慣がついた。
- ・授業を受ける前の予想と、受けたあとの結果を比べられることができる。
- ・次の授業が、どんなところを学ぶのかを事前に知ることができるので、少しでも理解力が高まるかも知れないと思った。
- ・授業の内容を通して、世界の課題について自分で考えることができる。またグループ活動で意見を交換する機会が増える。

主なコメント(どちらかと言えば良くないと思う・良くないと思う)

- ・ノートのページ数が減る。
- ・単元計画をあまり見なかった。
- ・単元計画を貼った後は、見返すことがあまりなかったから。
- ・単元の詳細を知ることや、単元の始まりと終わりに学習した内容を書き込んだりすることに、あまり必要性を感じないから。

調査4 マイノートを授業で取り入れることをどのように思いますか。



- 良いと思う
- どちらかと言えば、良いと思う
- どちらかと言えば、良くないと思う
- 良くないと思う

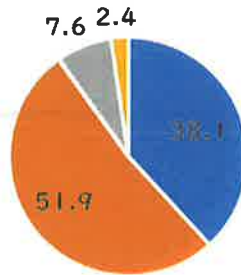
主なコメント(良いと思う・どちらかと言えば良いと思う)

- ・自分の考えをまとめられる。
- ・自分の言葉でまとめることができる。
- ・その日の授業を振り返るために必要だから。
- ・自分で分かりやすいようにまとめられる。
- ・自分の中で内容を噛み砕いて理解することができるし、教科書に載っていないことを補足してまとめることで、覚えやすくなる。
- ・自分が大事だと思ったことを自由にメモできるから。
- ・重要なところを書き残す事によって、記憶に残りやすいので良いと思う。
- ・自分がメモをしたい時に使え、先生が重要なことを言っていたらメモできるから。
- ・枠のみで設定することで、自由に枠を埋めることができるから。また、ある程度の枠にしっかり収める力が付くから。
- ・授業で習ったことや、思ったことなどをマイノートに書くことで記憶に残る。
- ・授業の最後に、キーワードを使って1時間の内容を自分でまとめると、頭の中が整理されて良い。
- ・ノートを見返したときに自分のまとめ方なので見やすい。
- ・自分でまとめることで記憶に残りやすいと思った。
- ・いつも振り返りを80字程度でまとめていると、作文が書きやすくなった気がする。

主なコメント(どちらかと言えば良くないと思う・良くないと思う)

- ・書くのに集中していたら、先生の話が聞けない時がある。
- ・まとめる枠が小さいと思う。学年に応じて拡大してほしい。

調査5 単元末のパフォーマンス課題を
どのように思いますか。



- 良いと思う
- どちらかと言えば、良いと思う
- どちらかと言えば、良くないと思う
- 良くないと思う

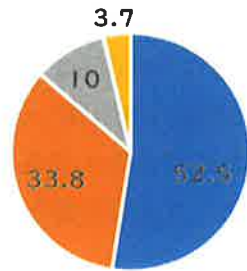
主なコメント(良いと思う・どちらかと言えば良いと思う)

- ・学習したことを活かして考えることで学びをもっと定着できると思う。
- ・イメージマップをすることで頭に残りやすくなる。
- ・発展課題は、やっていてワクワクする。
- ・生活に関連付けて考えるきっかけになる。
- ・自分で考えたことや、関連のある内容について調べるきっかけとなるからいいと思う。
- ・表彰されるので、モチベーションが上がる。
- ・学習した内容を発展させて考えることができるから。
- ・単元全体をつかめる。
- ・テスト前などに見返せるから。
- ・前回の習熟度で、発展課題でまとめていたところが出ていて、解くことができたから。
- ・少し調べたりするのが大変だが、復習にもなるし、疑問に感じたことなども調べたりできるので良いと思う。
- ・時間がかかってしまうけど、その分内容は理解できていたから。自分でまとめる力が身についたと思う。

主なコメント(どちらかと言えば良くないと思う・良くないと思う)

- ・かなり時間がかかりとても大変だから。
- ・内容を深く理解していないと難しいから。
- ・テスト前に提出だと、苦痛になるけど、自分でまとめて考えられるのでいいかも。
- ・イメージマップは、習ったところの単語復習としてはいいけど、発展課題はなかなか考えるのが難しいから。

調査6 新聞の読み方、書き方の講座を受けてみてどうでしたか。



- 良いと思う
- どちらかと言えば、良いと思う
- どちらかと言えば、良くないと思う
- 良くないと思う

主なコメント(良いと思う・どちらかと言えば良いと思う)

- ・新聞の書き方について分からないことが多かった中で、詳しく教えてもらったので良かった。
- ・毎年新聞を書く機会があるので、定期的に思い出すことができていると思う。
- ・プロの方に教えてもらって書き方も上達することができたので良かった。
- ・より人を引きつけるような新聞づくりができるから。
- ・人に伝える時に分かりやすくまとめる方法を知ることができた。
- ・新聞の工夫されているところや、新聞の作り方を詳しく知ることができた。新聞を読む時に、講座の内容を意識しながら、新聞を読むことできるようになった。また、行事の後に学校で新聞を作る時に役立つ。
- ・自分が知らなかった新聞の作り方や内容について深く知ることができた。また新聞を作ることによって、文章を書く力やまとめる力がついて、調べることで物事や世間について知ることができた。
- ・スライド作りにも役立つ。
- ・読む人に伝えたいことを魅力的に伝える手段を身につけ、その力を、新聞を書く時だけでなく、普段の生活でも活かせるようになった。

主なコメント(どちらかと言えば良くないと思う・良くないと思う)

- ・スライドを変えるのが早く、マイノートがあまり書けなかったし、頭に入ってこなかった。
- ・前回と同じような内容だったから。
- ・普段読んでいる新聞と自分たちが作る新聞とは全く別だから、もう少し作る側のアイデアがほしいと思った。

2 特別活動部会

(1) 部会の研究方針

特別活動部会では、生徒主体の委員会活動および生徒会執行部の活動の実施によって、「主体的・対話的で深い学び」につなげることを目指した。これまでの委員会活動では、委員会ごとに毎月の目標設定と定例活動をルーティーンのようにこなすだけになっていた。また、生徒会執行部の活動では、生徒集会の企画・運営と各種学校行事での生徒代表としての仕事に追われ、生徒が新たに考えた活動を行う余裕がなかった。そこで、これらを改善するための取組を行うこととした。

(2) 具体的な取組

① 委員会掲示物の改善

これまで、委員会活動では図1のように毎月、目標を立てていたが、その目標を達成するための明確な活動はなかった。そのため毎月違った目標を考えているが、定例の活動をこなすことで終わる月もあった。また、活動が変わらないことによって話し合いや活動そのものも生徒主体ではなく、教員主体になっていることが課題であった。

これらの改善策として、目標を達成した時の生徒の姿をゴールに設定したワークシートを作成した(図2)。そこに近づけるよう毎月の目標を立てるようにした。また、目標が達成できるよう具体的な活動を考え取り組むようにし、それぞれの委員会の取組が他

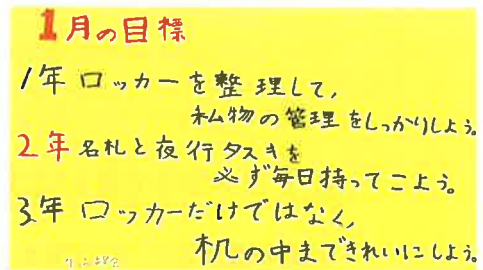


図1 従来の委員会掲示物

後期 【生活】委員会

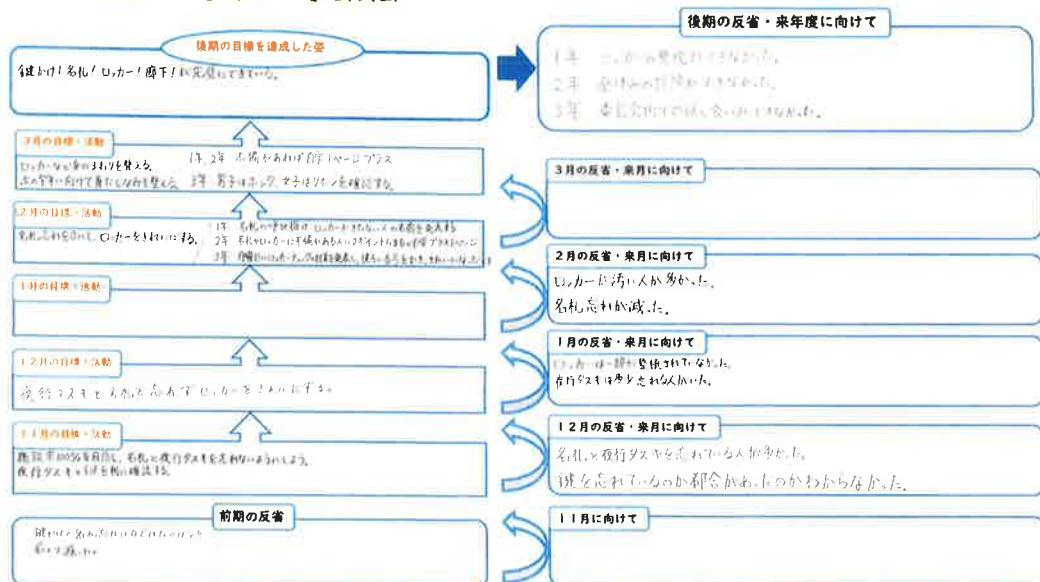


図2 改善後の委員会掲示物(ワークシート)

の生徒にも分かるよう、生徒昇降口に掲示した。このワークシートによって、生徒主体での話し合いから、目標を達成するための新たな活動を考えることができ、反省から次の目標の設定に向けて意見を出しやすくなった。また、活動することによる変化が感じられ、生徒の委員会活動への意欲につながっている。

② 「みかげマルシェ」への参加

生徒会執行部は学校行事での役割が多く、新たな取組の計画や地域との交流活動が少なかった。そのため、委員会活動と同様に、生徒主体ではなく教員主体での活動になっていた。活動を広げられない原因の一つとして、新型コロナウイルスの影響で活動が制限されていたことも考えられる。

そこで、学校行事に関わる仕事を精選し、地域で年4回行われる「みかげマルシェ」に参加することにした。「みかげマルシェ」とは、金光駅南口で金光町内の商店がブースを出店し、商品を販売している

朝市である。「みかげマルシェ」に生徒会執行部として参加するにあたり、ブースの内容や来場者数を増やすための方法を考えた。特にブースを出す時には、企画から改善までのPDCAサイクルを意識して、終わった後の振り返りを次回につなげるようにした。

また、「みかげマルシェ」での大きな取り組みとして、地域の商店とのコラボ商品づくりがある。コラボ商品に協力していただいたのは洋菓子工房ベルジェで、プリントクッキーのデザインと味を生徒会執行部で提案した。まず、企画案を準備し、店長と直接会議を重ねて販売までの準備を行った(図3)。プリントクッキーのデザインは、生徒会執行部だけで考えず、全校にデザインを募集し、その中から5つを選び、クッキーとして販売するようにした(図4)。当日もただ販売するだけでなく、ゲームのブースを構え、ゲームで高得点を取ると割引券がもらえるようにして完売できるための工夫を行った(図5)。

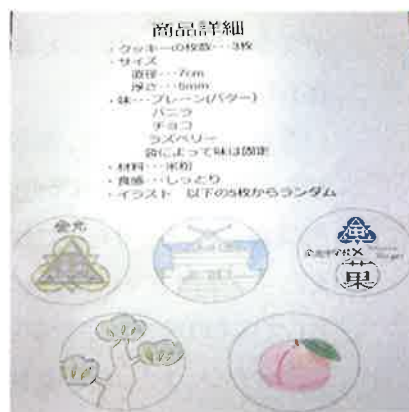


図3 生徒会執行部の企画案



図4 コラボ商品のプリントクッキー

プライバシー保護の
観点により、掲載い
たしません。

図5 割引券がもらえるゲームブースの様子



(3) 反省・今後の取組

目標達成時の姿から逆算する手法をとることで、生徒が主体的に毎月の目標および目標達成に向けた活動を考え、取り組むことができた。しかし、専門委員会を開く前に、各委員会と生徒会で活動の方向性を決めていく運営委員会が未実施のため、生徒会スローガンを踏まえた活動ができていない。運営委員会を開くことで、生徒同士がつながった活動になり、生徒会執行部の意図や思いが伝わり、スローガンを意識した、より主体的な活動ができるのではないかと考えられる。また、他の委員会と協力することで活動内容の多様化も期待できる。

生徒会執行部では、学校行事に関する仕事の精選を行うことで、「みかげマルシェ」などを通じて地域の方々の活動を増やすことができた。商品開発などの取り組みを通して、生徒が自分でやりたいことを実現するためにはどうすればよいのか、どのような言葉で伝えたら商店の方々に協力していただけるかを考える機会が得られ、主体的・対話的な活動として多くの学びにつながった。今後は、生徒会執行部の活動から学校全体の活動へと発展させたい。また、毎年夏休みに実施しているリーダー研修会において生徒会活動の情報交換を行っているが、新たな活動へとつながっていない。浅口市・里庄町の地域活性につながる活動を考え、実現していきたい。

3 ICT 環境部会

(1) 部会の研究方針

令和5年度岡山県学力・学習状況調査の第2学年の生徒質問紙において、授業で ICT 機器をほぼ毎日活用していると回答した生徒の割合が 25.3%と県平均より低く、ICT の活用状況に課題があることが分かった。ICT活用環境の整備と利用率向上のためには、2つの課題があると考えられる。1点目は、教員による ICT活用率の差である。ICT を活用する場面が限定的で、決まった場面のみでの活用にとどまっており、活用場面を増やすことが必要であった。2点目は、教員間でお互いの活用場面を知る機会が少ないという点である。ICT活用についての情報共有の場面が少なく、活用について話し合う機会をもつことが必要であった。そこで、ICT環境部会では、『ICTレポート』と『校内研修』の2つに力点を置き、ICT機器の活用による「主体的・対話的で深い学び」の推進を目指した。

(2) 具体的な取組

① ICT レポート(図1)

ICT活用のハードルを下げるためには、活用したツールや使い方、活用場面を共有することが必要であると考え、ICT を活用した授業を行った際に ICT レポート(図1)に記入し、提出をしてもらうようにした。

良かった点や便利だった点だけでなく、困った点や不便だった点も記入できるようにした。利点だけでなく、マイナス面も共有することで、活用場面を選択しやすくなった。

ICTレポート	
氏名	
	月 日
授業で ICT 機器を 活用した 場面	2023.9.13
良かった点 便利だった点 困った点 不便だった点	
良かった点 便利だった点 困った点 不便だった点	

図 1 ICT レポート

② 情報研修

(ア) 2023.9.13(水)

・Google フォームの使い方

Google フォームのテスト機能を用いた実践例と、その使い方を紹介した。

・AI テキストマイニング(図2)

道徳や学活などでの活用を想定し、Google フォームでアンケートをとったものをスプレッドシートにデータとして集約すると方法を紹介した。

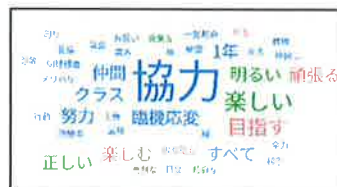


図 2 AI テキストマイニング

・クラスルームの使い方

クラスルームでストリームや課題の配信の仕方について確認した。

・Canva を用いた掲示物の作成

掲示物の作り方、賞状の作成、Canva を使った歌声コンテストの掲示物や道徳の振り返り等、活用事例を紹介した。

(イ) 2024.8.6(火)

・生徒アンケートの結果分析

1学期末に実施した生徒アンケートの結果を共有し、今後の活用方法について話し合った。

・Figjam の使い方について

新しいオンラインホワイトボードの使い方研修を行った。実際に生徒の立場で操作をして、機能や活用方法を確認した。

・ICT 活用事例の共有

グループごとに活用事例を共有した。また Google ドライブの閲覧権限を共有することで、生徒がクラスルームに提出した資料をお互いに閲覧できる方法を研修した。

プライバシー保護の観点により、掲載いたしません。

研修の様子

③ ICT 活用の情報提供

・一人一台端末活用事例集

<https://sites.google.com/gse.okayama-c.ed.jp/zireisyu>


・一人一台端末を利用した授業改善

<https://www.pref.okayama.jp/page/877113.html>

(3) 反省・今後の取組

R6年度の1学期末に行った生徒アンケートにおいて、「先生は授業の中でタブレットなどのICT機器を毎日活用している」という項目の肯定的回答が84.5%であった。また、多くの生徒が調べる力やタイピングの力がついたと感じていることから、取組に一定の成果があったと言える。一方で、まとめる力や発表の力を身につけたいという生徒のニーズに対応できていないことが明らかとなったので、活用方法の見直しや深化を図る必要がある。また、Jamboardに代わるオンラインホワイトボード Figjam が有効活用できるよう、研修およびICTレポート等での情報共有の継続も必要である。そのような取組を重ねていながら、学校情報化優良校としての認定も目指していきたい。

ICTレポート

日時 大体でOKです	場面によって
使ったICT	クラスルーム・ドキュメント・スライド・スプレッドシート・グーグルフォーム その他)
使用した場面・ 使い方	<p>実験のレポートをドキュメントで作成した。 実験の結果や写真を入れて提出した。</p> 
使ってみて よかったこと・ 便利だと 思ったこと	<ul style="list-style-type: none"> ・考察が苦手な生徒も写真をとる。記録をするなど取り組むことができる。 ・紙媒体のレポートより取り組みやすい場面もある。
よくなかったこと・ 不便だと 思ったこと	<ul style="list-style-type: none"> ・答えを検索して、記入してしまうことがある。 ・ローマ字入力が課題の生徒は取り組みにくい。 ・入力に時間がかかる。

ICTレポートの記入例

Ⅲ 研究の総括

1. 全国学力・学習状況調査及び岡山県学力・学習状況調査の質問紙から

令和4年度岡山県学力・学習状況調査で課題としていた「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している」(質問3)という点に改善が見られた(質問5)。その他にも「将来の夢や目標を持っている。」(質問6)、「学校に行くのは楽しい。」(質問7)、「学習したことが自分の生活に役立っている。」(質問8)などでも肯定的な意見が増えている。

今回の研究実践から、単元計画をはじめ、思考ツール、単元末のパフォーマンス課題までをパッケージングすることで、見通しをもって学習に取り組んだ先に、研究主題で設定した力が身につくのではないかと感じている。

一方、「自分にはよいところがある」(質問9)については改善が見られなかった。表現力の向上には、生徒が取り組む中で自信をもち、成果を感じられる活動の積み重ねが必要であると感じた。また、非認知能力の育成によって向上を図っていくことが必要になってくると感じている。

<p>質問5 難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している。</p> <p>プライバシー保護の観点により、掲載いたしません。</p> <p>■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる <input type="checkbox"/>どちらかといえば、当てはまらない <input type="checkbox"/>当てはまらない</p>	<p>質問6 将来の夢や目標を持っている。</p> <p>プライバシー保護の観点により、掲載いたしません。</p> <p>■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる <input type="checkbox"/>どちらかといえば、当てはまらない <input checked="" type="checkbox"/>当てはまらない</p>
<p>質問7 学校に行くのは楽しい。</p> <p>プライバシー保護の観点により、掲載いたしません。</p> <p>■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる <input type="checkbox"/>どちらかといえば、当てはまらない <input type="checkbox"/>当てはまらない</p>	<p>質問8 学習したことが自分の生活に役立っている。</p> <p>プライバシー保護の観点により、掲載いたしません。</p> <p>■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる <input type="checkbox"/>どちらかといえば、当てはまらない <input type="checkbox"/>当てはまらない</p>
<p>質問9 自分には、よいところがあると思う。</p> <p>プライバシー保護の観点により、掲載いたしません。</p> <p>■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる <input type="checkbox"/>どちらかといえば、当てはまらない <input type="checkbox"/>当てはまらない</p>	

2. 全国学力・学習状況調査学力調査の学力検査から

プライバシー保護の観点により、
掲載いたしません。

出典：令和6年度全国学力・学習状況調査 国立教育政策研究所
2024年7月 一部抜粋・加工

ほぼ全ての項目で全国及び岡山県の平均を超えることができた。「自分の将来のために、勉強することは大切であると思う」という元々の肯定的な回答に、2年間の研究主題に沿った取組の積み重ねが結果となったと感じている。

質問10 今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか。

プライバシー保護の観点に
より、掲載いたしません。

■最後まで書こうとした ■途中であきらめた ■全く回答しなかった ■その他

質問11 今回の数学の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか。

プライバシー保護の観点に
より、掲載いたしません。

■最後まで書こうとした ■途中であきらめた ■全く回答しなかった ■その他

特に記述式においては、次に示す質問項目（質問10、11）からも分かるように「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」割合が非常に高く、普段からの取組が学力的にも効果があると裏付けられた結果となった。また、「書く問題は全く解答しなかった」と答えた生徒が少なかったことも大きな成果と言える。

3. 研究部会の取組と関わりがあったと見られる結果について

「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」（質問12）及び「人の役に立つ人間になりたい」（質問13）から、特別活動部会の「みかげマルシェ」の活動が郷土を愛する気持ちの醸成につながったと考えられる。

「授業でPC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」（資料14）から、ICT機器を活用して、授業を実践していることが考えられる。

また、「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学習やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか」（資料15）から道徳の授業においても研究主題に迫った活動ができていることが考えられた。

<p>質問12 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。</p> <p>プライバシー保護の観点により、掲載いたしません。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 当てはまる <input type="checkbox"/> どちらかといえば、当てはまる <input type="checkbox"/> どちらかといえば、当てはまらない <input type="checkbox"/> 当てはまらない</p>	<p>質問13 人の役に立つ人間になりたいと思いますか。</p> <p>プライバシー保護の観点により、掲載いたしません。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 当てはまる <input type="checkbox"/> どちらかといえば、当てはまる <input type="checkbox"/> どちらかといえば、当てはまらない <input type="checkbox"/> 当てはまらない</p>
<p>質問14 授業でPC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。</p> <p>プライバシー保護の観点により、掲載いたしません。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> ほぼ毎日 <input type="checkbox"/> 週3以上 <input type="checkbox"/> 週1以上 <input type="checkbox"/> それ以下</p>	<p>質問15 道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学習やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか。</p> <p>プライバシー保護の観点により、掲載いたしません。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 最後まで書いた <input type="checkbox"/> 途中であきらめた <input type="checkbox"/> 全く回答しなかった <input type="checkbox"/> その他</p>

研究同人

プライバシー保護の観点により、
掲載いたしません。